

令和2年度 川口市 行政評価 外部評価委員会 外部評価結果

事業コード	43100101	事業名	クリーン推進員事業
部会名	第一部会	担当課	資源循環課

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	2	2	2	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	4	2	3	2	3	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	3	2	2	3	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	3	3	3	2	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	3	3	3	3	3		
部会全体	3	2	2	2	2		

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨は理解できるが、町会からクリーン推進員を選出するという制度であるため、必ずしも適任者が選出されているわけではない。そのため、取り組み意欲についても、ばらつきが出てしまう。
2	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨・目的を考えた場合、必要な事業である。クリーン推進員がいなければ、無秩序になってしまう。
3	①趣旨・目的及び達成手段	事業内容は良いため、このまま事業を進めてほしい。
4	①趣旨・目的及び達成手段	ゴミの排出方法に関する知識を持つ人が、クリーン推進員として身近にいることは良いことだと思う。クリーン推進員を知らない市民も多いため、より多くの人に知ってもらえるようPRに力を入れてほしい。
5	②事業の効果	地域や場所によって必要な役割が異なり、また、報告率も低いいため、具体的な活動の把握が必要である。
6	②事業の効果	成果が形になりにくいいため、事業の効果を測ることは難しいと思うが、活動報告書を有効活用し、何がどう変わったのかを具体的に報告できればよいと思う。
7	②事業の効果	クリーン推進員の活動がすべてうまくいけば、川口市は全国でもトップクラスのクリーンな市になると思う。
8	③事業の効率化	各地域の課題及び問題点を把握したうえで、メリハリのあるチームをつくるなどの方法で、適切な対処を行い、具体的な効果を上げる必要がある。
9	③事業の効率化	各町会での温度差がかなりあると思う。活動があまりなされていない町会に対しては、活動意欲を向上する対策を市で講じるべきである。

No.	評価の観点	評価コメント
10	④課題解決への取り組み	町会への一任という制度に若干疑問を持ったが、具体的な代替案を考えた際、致し方ないと感じた。現状の制度で実施する場合、マニュアルを作成する等の具体的な体制づくりが必要である。また、現実的に難しいと思うが、若い世代を取り込む等、全世帯を取り込む体制づくりができればよいと思う。
11	④課題解決への取り組み	外国人住民の対応等はクリーン推進員のみでは難しいと思うため、クリーン推進員と市と一丸となって対応してほしい。
12	④課題解決への取り組み	各地域のクリーン推進員による活動報告会等を行えば、推進員の意欲向上につながるのではないかと。
13	⑤今後の事業の方向性	地域によっては、クリーン推進員が不要な地域もあるため、全地域に対して同じ仕組みで実施する必要はないのではないかと。市全域での対応ではなく、必要な地域に必要な人員を配置する仕組みをつくる必要がある。
14	⑤今後の事業の方向性	秩序を保つためには必要な事業であると思う。しかし、多くの市民がクリーン推進員を知らないため、この制度を周知する必要があると感じた。
15	⑤今後の事業の方向性	市の環境美化を促進するには必要な事業であるため、今後も継続して実施すべきである。
16	⑤今後の事業の方向性	ゴミの排出に関して、常習的に規則違反をする住民がいても、ゴミを回収していた場合、その意識は他の住民にも拡散されていくため、何らかの処置や対策を講じる必要がある。違法の場合は、立件する等の検討も必要であると思う。
17	⑥事業全体を通じた総合的な評価	クリーン推進員の評価が主観的であると感じた。具体的な根拠による、裏付けのある評価をすべきである。
18	⑥事業全体を通じた総合的な評価	必要な事業だと思うので、効果をあげて、継続してほしい。
19	⑥事業全体を通じた総合的な評価	ゴミを出すだけで、その後の処理等に関しては関心がなかったが、クリーン推進員の活動を知り、今一度自分のゴミの出し方等を見直す良い機会になった。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
3 概ね適正	クリーン推進員がいなければ、ゴミの排出に関して、無秩序な状態になることが懸念される。また、ゴミの排出方法に関する専門的な知識を持つ人が身近にいることは良いとの評価があった。一方で、クリーン推進員を知らない人が多いため、PRに力を入れるべきである。また、町会からの選出のため、適任者がクリーン推進員になっていないとの懸念があるとの評価があった。そのため、各町会での取り組みにばらつきがあり、目標が十分に達成されていない。全体としては、この趣旨・目的を活かして取り組んでほしいとの意見であった。
②事業の効果	
2 改善の必要あり	「3 概ね適正」との意見も多数あったが、「2 改善の必要あり」としている。何がどう変わったか、クリーン推進員がいることで、どのような効果があったかを具体的に示す必要がある。
③事業の効率化	
2 改善の必要あり	各町会、地域によって、かなり温度差があるため、全体の底上げが必要である。各町会、地域ごとに、同じ課題ではなく、異なる課題があるのではないか。報告書の提出率の低さについての指摘もあった。
④課題解決への取り組み	
2 改善の必要あり	クリーン推進員の選出方法については、町会からの選出という仕組みはどうかという疑問もあったが、致し方ないとの声もあった。現状の仕組みのまま実施する場合、マニュアルを作成し、各推進員が活動しやすい体制をつくる必要がある。また、若い世代の加入も検討してもよいのではないか。その他、各町会、地域の問題点が異なるため、その旨を把握した上で、対処することが必要である。
⑤今後の事業の方向性	
2 改善の必要あり	「3 概ね適正」との意見も多数あったが、「2 改善の必要あり」としている。市民へあまり周知されていない点や悪質な住民への対応策が必要である点等の指摘があった。また、市内全体という枠組みを外し、必要なところに必要な人員を配置するという仕組みが必要である。
⑥事業全体を通した総合的な評価	
	事業担当課におけるクリーン推進員の評価について、客観的な根拠が乏しいことから、可能な限り、裏付けのある評価を今後実施すべきである。

事業コード	35200801／35200232	事業名	文化財センター施設運営費 郷土資料館施設運営費
部会名	第一部会	担当課	文化財課

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	3	2	2	2	3	4	適正 適正な事業運営がなされている
B委員	4	3	3	3	3	3	概ね 適正 適正な事業運営がなされている
C委員	3	2	2	2	2	2	改善の 必要あり 概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	2	2	2	2	2	
E委員	3	3	3	3	2	1	抜本的 見直し 抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
部会全体	3	2	2	2	2		

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	文化財の保護・活用は、重要である。
2	①趣旨・目的及び達成手段	必要な施設であると思う。
3	①趣旨・目的及び達成手段	市の歴史、文化を市民に周知する事業は必要である。
4	①趣旨・目的及び達成手段	地元住民が減少する中で、移転者や外国人居住者にも市の歴史を周知することは良いことであり、また、地元住民にもあらためて郷土愛を持ってもらえることも良いことだと思う。
5	①趣旨・目的及び達成手段	残していくべき事業だと思う。
6	②事業の効果	さらなる工夫により、集客につながる取り組みを進めていくことが必要である。
7	②事業の効果	新しい取り組み等にチャレンジしていることは理解できるが、PR不足であることは否めない。
8	②事業の効果	若い世代に伝わるあらゆる伝達手段（広告媒体）を用い、さらに事業の効果を広めてほしい。
9	③事業の効率化	外部の力を活用してイベントを実施しているが、さらに活用することで、より幅広く、魅力的な事業が展開できるのではないか。

No.	評価の観点	評価コメント
10	③事業の効率化	PRをはじめ、改善すべき点が多数ある。
11	③事業の効率化	集客性のある博物館を目指すのであれば、民間の企画制作会社等に委託し、デザインのアドバイスを受けたりするのもよいのではないか。
12	④課題解決への取り組み	担当課が非常に努力していることは評価できるが、さらなる取り組みを期待したい。
13	④課題解決への取り組み	担当課が努力していることは理解できるが、さらなる取り組みが必要である。
14	④課題解決への取り組み	以前から市で検討している川口駅への中距離電車乗り入れ停車計画を実現し、交通の利便性が高まることで、さらなる集客が図れるのではないか。
15	④課題解決への取り組み	インターネットを駆使し、子どもが興味を持つような取り組みを行っていると思う。小学校でもPCの授業が開始しているため、授業の中で活用してもらってはどうか。
16	⑤今後の事業の方向性	統合という方向性が示されていることもあり、概ね適正である。また、新型コロナウイルスに関する対応も含め、着実な取り組みを期待したい。
17	⑤今後の事業の方向性	移転・統合について漠然としているため、具体的に検討すべき時期なのではないか。
18	⑤今後の事業の方向性	施設の統合等、改善点は多数あるが、新型コロナウイルス対応で集客が難しい中、今後も様々なコンテンツを駆使して頑張ってほしい。
19	⑤今後の事業の方向性	そごう百貨店の跡地に移転し、併せて民間企画制作会社を活用し、事業拡大してはどうか。
20	⑤今後の事業の方向性	歴史や文化を残していくことは必要なため、利便性の良いところへの統合、移転を進めるべきである。
21	⑥事業全体を通した総合的な評価	毎年異なるイベントを企画するのは大変だと思うが、一生懸命頑張っているのが非常に評価できる。さらにリピーターを増やせるよう、今後も継続して頑張ってほしい。
22	⑥事業全体を通した総合的な評価	毎回異なるイベントを企画しているのは良いと思う。
23	⑥事業全体を通した総合的な評価	引き続き、集客を増やす工夫をしてほしい。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
3 概ね適正	市の文化財を守り、活用していく意義は非常に大きい。
②事業の効果	
2 改善の必要あり	「3 概ね適正」との意見も多数あったが、「2 改善の必要あり」としている。魅力的な施設は、より大きく、さまざまなコンテンツを駆使し、集客力も高いことから、取り組み内容を効果的に伝えるという点では、改善の必要がある。
③事業の効率化	
2 改善の必要あり	現在も外部の力を活用し、イベントを行っているが、さらに外部の力を活用することで、より魅力的な事業を展開することができる。
④課題解決への取り組み	
2 改善の必要あり	「3 概ね適正」との意見も多数あったが、「2 改善の必要あり」としている。さまざまな取り組みを行い、努力しているという点では高い評価であったが、今後、さらなる取り組みに期待したい。さまざまなツールを駆使し、効果的にPRすることで、さらなる集客が望める。小学校でもインターネットの授業を行っているため、その授業等を活用してもよいのではないか。
⑤今後の事業の方向性	
2 改善の必要あり	「3 概ね適正」との意見も多数あったが、「2 改善の必要あり」としている。統合という方向性が出ているが、あまり具体化されていないため、今後の方向性を明確に打ち出すべきではないか。利便性のよい立地に大きな施設を建設すれば、魅力的な施設になるとの意見もあった。
⑥事業全体を通した総合的な評価	
	新型コロナウイルス対応で課題が多々あると思うが、ぜひ頑張ってもらいたい。

事業コード	33100101	事業名	商店街活性化事業
部会名	第二部会	担当課	産業振興課

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	2	3	2	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	3	3	3	3	2	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	3	2	2	2	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	-	-	-	-	-	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	4	2	3	2	4		
部会全体	3	3	3	2	2		

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨・目的が明確といえない。
2	①趣旨・目的及び達成手段	中小商店街の存続・活性化のためには必要不可欠な事業であると思う。
3	①趣旨・目的及び達成手段	活性化の為には不可欠な事業である。
4	②事業の効果	有効性の検証がなされていないと思われる。
5	②事業の効果	数的比較等が他の事業とできるわけではないが、概ね有効に機能していると思う。
6	②事業の効果	有効性が直接的に測られるような仕組みになっていない。アンケートなどで集計できるようにしてはどうか。
7	③事業の効率化	他の組織・団体等と連携するかたちであったとしても、もっと市が力を入れ、表に立って商店街へのアプローチをしてもよいと思う。
8	④課題解決への取り組み	方針（戦略）が明確ではなく、戦術的取り組みしかしていない。
9	④課題解決への取り組み	より効果的な補助金の支給、予算の執行ができないか。

No.	評価の観点	評価コメント
10	⑤今後の事業の方向性	1985年以降、社会状況が大きく変化してきた上に、今年度のコロナ感染症問題でより大きな変化が起こることが想定される。戦略を持たない現状は不安である。
11	⑤今後の事業の方向性	市としての今後のビジョン、例えば中小商店街のいくつかを1つの大きな規模の商店街にまとめ、大型店に負けない力をつけてもらうことや、中小商店街が衰退することがないように市が助けていくなど、目指すところをある程度決めるべきだと思う。
12	⑤今後の事業の方向性	内容を充実させつつ、一層拡大していくべき。
13	⑥事業全体を通した総合的な評価	多様化するニーズや大型ショッピングモール等に対して、商店街に求められる集客、売り上げには、行政も入り込んだイベントやブランド作りが必要と思われる。
14	⑥事業全体を通した総合的な評価	事業としては良い事業だが、コロナ問題を経て商店街も変化していく時期なので、事業内容を工夫しつつ、商店街の活性化に尽力してほしい。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
3 概ね適正	事業に対して期待はしている。しかしながら、公平性に縛られすぎず、変化に対応したやり方が必要になってくると考える。
②事業の効果	
3 概ね適正	補助をして終わりという印象は否めないことから、事業の効果検証やどの分野に支援の重点化を置くのかを図る意味においても、アンケート等のモニタリングを行うことが有効と考える。
③事業の効率化	
3 概ね適正	
④課題解決への取り組み	
2 改善の必要あり	方針(戦略)が明確でなく、戦術的な取り組みに終始しているように思える。
⑤今後の事業の方向性	
2 改善の必要あり	変化していく状況に対して、戦略やビジョンが必要である。方向性が定まらないと、今やるべきことは何か明確化しない。
⑥事業全体を通した総合的な評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体を通した総合的な評価としては、ビジョンや戦略を決め、支援の方向性を定めていく必要があるというものである。行政としての公平性は理解したが、変化に対応するには、それに縛られず、自主的に手を打っていくことが肝要となるだろう。そのためには、アンケートの実施など事業の効果測定をするべきであり、測定は今後の戦略につながる有効な手段である。 ・ 1985年からこれまでの商業環境の変化があり、そして、コロナ禍を経て、今後ますます商店街は変化にさらされる中で、どういう形で商店街が発展していくのか、方向性を考える必要がある。商店街によって規模も体力も様々であり、一律な支援の仕方ではよいのか、従来どおり補助金の申請を受けるだけでよいのかという疑問にもつながるが、方向性を定めてどこを手厚く支援していくかについて、行政も自主的に考える時期である。

事業コード	23200501/22100851	事業名	中学校・高等学校運動者派遣事業 部活動指導員配置事業
部会名	第二部会	担当課	スポーツ課/指導課

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	3	4	3	3	3	4	適正 適正な事業運営がなされている
B委員	4	4	3	3	3	3	概ね 適正 適正な事業運営がなされている
C委員	4	3	3	3	3	2	改善の 必要あり 概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	3	3	3	3	1	抜本的 見直し 抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	4	3	3	3	3		
部会全体	4	3	3	3	3		

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	2事業とも、部活動には欠かせない内容であると思う。
2	②事業の効果	2事業とも、教員の働き方改革には役立っていると思う。
3	②事業の効果	大会やアンケートで有効性が認められている。
4	③事業の効率化	2つの異なる事業であり、それぞれ適正に運用されている。
5	④課題解決への取り組み	リクルートメントとリスク管理は非常に難しいと考えられる。
6	④課題解決への取り組み	研修の実施やその他の指導がしっかりできているとのことで、今後も何の問題も起きないようにお願いしたい。
7	④課題解決への取り組み	学校指導者へのアンケートの実施や研修会等部活動指導者については、良く取り組まれている。
8	⑤今後の事業の方向性	スポーツ課と指導課は、少々異なるロジックをもっているように感じられた。両制度の学校教育への関与の度合いの違いによると思われるが、意思統一が重要と考える。
9	⑤今後の事業の方向性	2事業それぞれに実施すればよい。ただし、2事業の連携が重要なので、タスクフォース等を導入したらどうか。

No.	評価の観点	評価コメント
10	⑥事業全体を通した総合的な評価	市民参加、教員負担軽減等メリットも多いが、子どもの教育に教員免許を持たない者を指導者とする場合のリスクも考える必要あり。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
4 適正	
②事業の効果	
3 概ね適正	
③事業の効率化	
3 概ね適正	
④課題解決への取り組み	
3 概ね適正	
⑤今後の事業の方向性	
3 概ね適正	
⑥事業全体を通した総合的な評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2事業全体の評価としては、有効な制度であるといえる。今後の在り方を検討する際に、指導課ではアンケートをとるとの発言があったが、意見の集約は必要であり、評価できる。 ・ 現在の制度がもっとうまく活用できるようになれば、統合ありきという結論を性急に出すものでもないように思う。運用を有効にしていく手段として、例えばタスクフォースを設立して運用していくという案もあった。 ・ リスク管理は重要である。教員免許を持たない大勢の人たちが子どもの教育に積極的に関わってくるもののリスクの大きさを考えると、統合は否定しないが、大掛かりな制度を構築する前に、現状でも熟慮すべき課題はあるように思う。 ・ 学校教育に関与する程度の差もあろうが、スポーツ課と指導課のロジックや感覚が異なるので、統合した制度や運用をする前に意思統一を図ることが必要である。